

港 1月コンテナ取り扱い実績 神戸 大阪 輸出で健闘

【関西】阪神港(神戸港、大阪港)の1月コンテナ取扱個数は、神戸、大阪共に輸出がプラスとなる一方、輸入がそろって減少した。米中間の貿易摩擦の影響などで需要が低迷していた輸出に回復色が出てきた半面、比較的健闘してきた輸入は一服した形だ。

取扱個数のうち、輸出は神戸港が前年同月比3・7%増の8万2936TEU、大阪港は11・1%増の7万5688TEUだった。阪神港の20年の輸出は前年比で神戸港が8・4%減、大阪港も実入りに限ると6%減だった。

一方、1月の輸入は神戸港が前年同月比7・8%減の7万5944TEUだったほか、大阪港も6・5%減の9万3810TEUだった。輸入貨物主体の大阪港はコロナ禍で20年の取り扱いで健闘していたが、一服感が生じた形だ。

関西のフォワーダー関係者によると、関西向け輸入貨物は運賃が高止まりしているという。主要仕出し地の中国発貨物でブッキング困難な状況が緩和傾向にあるが、タイ出しやベトナム出しなどはブッキングが難しい情勢という。

神戸、大阪両税関のまとめによると、輸出貨物の金額ベースでの1月概況は、神戸港が6・4%増の3811億円、大阪港も28・8%増の3424億円を記録している。